

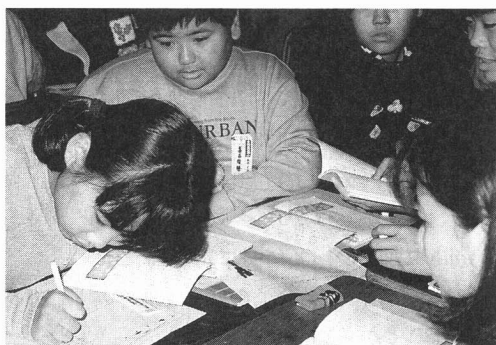
み」じゃないのと言った事だと思います。

T : ほほう、それでM子さんは何を発見したの。

M子 : それは教科書9ページ4行目のお父さんか
にの言葉とぴたり結びつくことがわかった
んです。

(今までにないM子の眼の輝きに教師は笑顔
で応えながら)

T : なるほど、なるほど、それは本当にすごい
発見ですね。よく読み取りました。自分なり
の考えがそんなふうに深まることはすばらし
いことですね。



真剣な話し合い

T : i男君も何か言いたいようですね。

i男 : ぼくもM子さんが分からないと言った〈光
のあみ〉のことで考えたことを発表します。

T : それはぜひ聞きたい。どんなこと。i男君
は、お話を聞きながらメモをとっていました
ね。それにグループの話し合いではi男君は
楽しそうに話していましたね。

i男 : 光のあみとは、f男君が「それは9ページ
3行目の〈波から来る光のあみ〉のことでは
ないかな」と言ったことです。〈あみ〉は、
魚をとる網のようなものだと思いますが、薄
くて光がゆらゆらしている様子をたとえてい
ます。これは、ひとつの出来事が終わって、
また元の静かなファンタジーの世界に戻った
様子を表しているんだなあと思います。

T : そうすると、i男君の考えは、f夫君が言
ったことがヒントになっているんですね。
「f夫君が見つけた〈波のあみ〉の発見もすば
らしい。」

(授業はこのように友達の発言が、自分の考
えの基になり、話し合いが展開していった。)

④ 授業実践についての考察

ア 自分の考えを明確にさせる

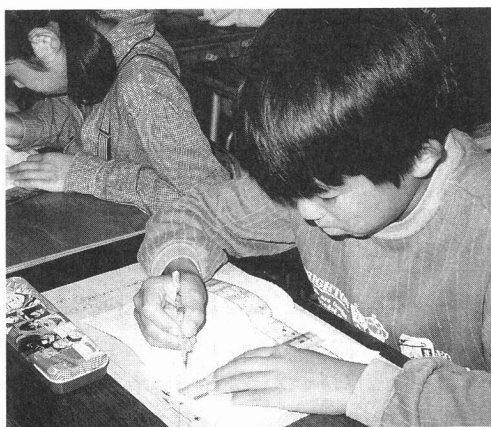
学習の初めに個別学習の場を置き、一人一人に
線を引かせたり、書き出させたりしたことは、自
分なりの考えを持たせ、後の学習で練り上げられ
ていくことを理解させるのに効果的であった。

イ 自分と友達の考えの違いに気づかせる

友達の考えの良さに気づくことは、自分の考え
を練り上げるきっかけになる。勇気をもって自分
の考えを出せるように小人数グループにしたこと
はよかった。特に、消極的な児童もグループの一
員としての自覚をもって話し合うことができたこ
とは、グループの考えを全員でつくり上げるとい
う意欲につながっていった。

ウ 全体で話し合い自分の考えを深める

グループでまとめたものを、OHPを使っての
発表で全員に知らせた。ここでは、代表の発表を
聞いて質問や意見を出し合い、練り上げていく。
意見を出せない児童も、心の中ではうなずいたり、
自分の意見と比べたりして聞いている表情が見ら
れ、それぞれの役割を果たせた充足感が感じられ
た。



個による学習

⑤ 他の教育活動における実践

担任が、児童に対して自分のことに関心をもち
理解を深めていくことができるように、木曜日の
放課後に位置づけ全員を対象に教育相談を実施し